

## 早稲田大学 法学部 政治・経済 講評

### 〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	大問は4問(政治憲法分野から1問、経済分野から3問)。昨年と同じく論述問題が3問(字数制限30字1問、所定欄記入1問、字数制限75字1問)。小問数は42問。難問はあまりないが、基礎知識だけでは対応できない思考力を問う問題もありリード文や選択肢を注意深く読むことが重要。

### 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	情報化社会とプライバシー	問3. 情報リテラシーとは「情報を正しく読み取り、活用できる能力」のこと。問5. 近年では「自己の情報を統制できる権利」も主張されている。	標準
II	経済のグローバル化、国際経済	問3. GATTとWTOの比較は頻出。問4. ワシントン条約は「商業目的」の輸出入を全面的に禁止(学術目的は許可)。問8. 介護面等の労働力不足が懸念されている。	標準
III	証券投資のリスク	問1. 「期待値」とは確率(場合の数)のこと。問5. 例えば1ドル=200円から1ドル=100円になった場合をイメージしてみる。	標準
IV	消費者問題	消費者問題に関する基礎知識を問う問題。問9. 「悪質商法」例は資料集で図示されている。問10. クーリング・オフも頻出事項。	易

### 〔総合コメント〕

<p>教科書レベルの問題からやや専門的な問題までは幅広く出題されている。教科書・用語集・資料集レベルの問題は確実に得点することが大切。リード文や選択肢の文章は注意深くよむこと。基礎知識をふまえ時事的知識や思考力を問題も多いので、かねてから新聞記事などにも注意しておくことも大切。論述問題の解答に際してはキーワードや字数配分に注意して解く必要がある。</p>
--